

2009 年度

東邦大学医学部看護学科・河南科技大学臨床医学院

国際学術交流プログラム

来日研修報告書

2009 年度
東邦大学医学部看護学科・河南科技大学臨床医学院
国際学術交流プログラム
来日研修報告書

目次

- 1 . はじめに
国際交流委員会副委員長 河南科技大学からの研修を受け入れて
- 2 . 来日研修プログラム
 - 1) 研修生
 - 2) 研修プログラム日程
 - 3) 交流風景
- 3 . 参加学生のレポート

国際交流委員名、作成月日など

1. はじめに

河南科技大学からの研修を受け入れて

国際交流委員会副委員長 野崎真奈美

東邦大学医学部看護学科は2009年6月9日河南科技大学臨床医学院と国際交流の覚書に調印し、新たな時代の国際交流を開始した。その活動の一貫として、看護学科は10月4日から10月17日まで河南科技大学臨床医学院より2名の臨床看護師の研修を受け入れた。

看護学概論で日本の看護・医療の現状について説明を受けた後、感染制御学の実験、高齢者看護学の演習に参加した。特に装置をつけて高齢者の疑似体験を行い、看護のあり方を学ぶ演習には深く感銘を受けていた。

研修生は臨床経験が豊富であり、東邦大学医療センター大森病院の精神科病棟、地域支援センター、助産病棟とNICUなどの施設を熱心に見学した。東邦大学医療センター大橋病院も見学し、専門分野に関する情報交換を行った。さらに、研修生は本学学生への授業を担当し、英語でプレゼンテーションを行った。受講した本学学生は中国の医療・看護の実際に興味深く聞き入っていた。

研修期間中に研修生はグランドプリンスホテル新高輪で開催された第6回4大学ジョイントセミナーに参加し、チェンマイ大学・ソクラ王子大学・昆明医科大学・東邦大学が集う国際的な学術集会を体験した。

懇親会では日本料理に舌鼓をうち、本学教職員と和やかな時間を過ごしていた。放課後には本学学生および他国からの研修生と共に出かけることもあり、教職員のみならず人々と活発に交流する姿が印象的であった。

研修生にとって今回が初めての来日であったが、好奇心旺盛に様々なことに挑戦し、日本での生活に馴染んでいた。最終日の終了式では、研修生は日本での数々の経験を帰国後それぞれの立場で活かしたいと抱負を述べた。とても充実した日々を過ごしていたことが伺える。研修生は臨床看護師であったが、学生間の交流とは異なる落ち着いた雰囲気の中で大人の交流ができたように感じる。今回の経験を活かして、教員間の交流が定着することが期待される。現在、河南科技大学との共同研究を計画中である。今後は学術的な面からも河南科技大学と東邦大学の交流を深めていき、真の意味の相互的交流に発展していくことを願っている。

2. 来日研修プログラム

1) 研修生

	名前	専門領域
劉花転	Ms. LIU HUAZHUAN	外科看護
贾竹敏	Ms. JIA ZHUMIN	内科看護

2) 研修プログラム日程

月日		時間	内容
10月4日	日		成田到着
10月5日	月	8:30	お迎え
		9:00-12:00	オリエンテーション・学科紹介
		13:00-16:00	看護学概論
		18:00	歓迎会
10月6日	火	9:00-16:00	感染制御学
10月7日	水	9:00-16:00	精神看護学
10月8日	木		台風のため臨時休日
10月9日	金	9:00-16:00	大橋病院見学
10月10日	土	9:00-14:00	はとバスツアー
10月11日	日		自由行動
10月12日	月	9:00-17:00	4大学ジョイントセミナー参加
10月13日	火	9:00-16:00	高齢者看護学
10月14日	水	9:00-12:00	講義準備
		13:15-16:30	国際看護学 にて講義
10月15日	木	9:00-16:00	家族・生殖看護学
10月16日	金	10:00-11:00	研修振り返り
		11:00-11:30	修了証授与
		13:00-18:00	自由行動
		18:00-19:00	送別会
10月17日	土		帰国

3) 交流風景



研修修了証の授与



3. 参加学生のレポート

日本研修の感想文

尊敬する高木学科長及び教員の皆様：

今日は、2週間の研修は学科長と先生方のいたれりつくせりの中で終了しました。私達は感激の気持ちと沢山の収穫を持って仕事の場に戻りました。たった2週間という短い時間なのに、私の一生の中でもっとも美しい思い出となろうかと思えます。ここでは、学科長と先生方にいただいたことに、心より感謝を申し上げます。

東邦大学は私の日本での家です。私達二人は初めて日本に行くので、不安の中で12時間を経て成田空港に着きました。言葉が不自由で、漠然とした時、私達の名前を買った名札をもっている細谷先生が見えて、まるで家族がみえたようにとても温かく感じました。細谷先生の熱心な指導の下で私達はホテルに着き、そして二日目の歓迎会に出席することができました。歓迎会において、私達は優しい高木学科長、凛とした岡田先生、美人の佐山先生、才能溢れる野崎先生にお会いしました。先生方が作ってくださったスケジュールを通して、本当に自分の家に着いたような気がしました。

美しいキャンパスと責任感の強い先生方。東邦大学はさすが日本での有名な大学として、きれいな教室と現代的な教学器具など、魅力が溢れています。様々な演習室と演習道具は学生の学ぶ意欲を引き出します。遠藤先生の看護学概論を通して、日本の看護現状についての理解が深め、中日両国の間に存在する距離が見えてきました。小林先生の感染制御学を通して、身をもって“六段階手洗い法”の科学性を体験しました。山城先生の精神看護学を通して、日本の患者さんが受けたであろう厚い恩恵と臨床看護師の愛の奉仕を感じました。また、大橋病院での見学は、森田看護部長、浅木看護副部長、和田先生と専門看護師の松岡先生にお共していただき、とても光栄と感じながら、感動しました。浅木先生と松岡先生のご講演は具体的な数字と事例を通して、院内感染コントロールと医療安全の大切さを教えて下さって、とても勉強になりました。量先生に10月10日の休みを利用して、東京の市内観光に連れて行っていただきました。私達は東京の市内風景を楽しんだり、東京タワーに登ったりして、富士山まで見えました。日本はとてもいい国だなあとますます思いました。最も楽しかったのは辻先生の高齢者看護学の学びでした。日常生活における高齢者の様々な不便を学生に体験させ、自分達はどうすべきかを学生たちに考えさせるのです。また、斎藤先生の家族生殖看護学の授業を通して、日本の人間尊重の精神をつくつく感じました。以上のすべては先生方が優しく丁寧に教えていただきましたので、本当に感動しまし

た。

10月12日、私達は四つの大学の学術交流セミナーに参加させていただきました。教授方の英語の講演を通して、これから自分の英語力をアップさせ、国際的視野を養う必要性があると思いました。10月14日、学生に英語の授業をする日でした。事前に佐山先生に多大な指導と助けをいただきました。本当に有難うございました。

今回の日本の旅は、感激、感動、収穫の連続です。本当にお世話になりました。同時に、東邦大学の皆様に多大のお手数をかけたことで恐縮な気持ちがありました。先生方が私達の仕事の指導のために洛陽にいらっしゃることを心よりお待ちしております。その際、倍の情熱でご招待させていただきます。

本当に有難うございました。

研修生 劉花転

2009-10-20



東邦大学研修感想文

尊敬する東邦大学医学部看護学科長高木先生及び先生方：

こんにちは。

金色の10月は収穫の季節です。私たちは日本東邦大学医学部看護学科での2週間の研修生活を順調に送ることができました。その嬉しい気持は言葉では言い表せません。ご指導いただいた皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

2週間に渡り、ご指導とご支援をいただいた遠藤先生、斎藤先生、小林先生、山城先生、山崎先生、辻先生、岡田先生、野崎先生、佐山先生、細谷先生及び事務の方々に心より感謝を申し上げます。特に高木学科長が優しかったのは印象的でした。

東邦大学医学部看護学科はさすが一流の看護学科です。ここで勉強している学生たちは幸運だなぁと思います。貴大学の先生方が高い素質と豊富な理論知識をもっています。授業をしてくださった先生方はとても熱心に教えていただき、私たちの質問に真剣にお答えいただきました。また、私達の研修期間の食生活等にはいたれりつくせりのご配慮でした。

授業中において学生たちがいきいきしているのはとても印象的でした。高齢者看護学の授業のやり方はとても素晴らしく、中国は学ぶべきだと思います。学生たちは明るく、活発で、中国の看護師に感心をもってくれたことが嬉しかったです。

見学させていただいた大橋病院のICU、産婦人科、一般外科、腫瘍科、大森病院の産婦人科、森重助産院及び精神科において、患者に優しく、仕事に真面目な看護師たちがいました。日本人患者としてきっと安心して質の高い看護サービスを受けていると思います。

大橋病院の看護部長、感染課長、安全管理課長、ストーマ認定看護師はとても親切に色々教えてくださいました。とてもいい勉強になりました。大橋病院の新人看護師の育成は素晴らしく、とても印象に残りました。我々の病院は真剣に学ぶべきだと思います。

精神看護学の山城先生の授業は活力に溢れています。山城先生が心より精神病患者を愛していること、精神病患者の社会復帰への熱意が感じられました。小林先生の感染御制学は私達にとって意外でした。このように一流の実験設備を利用し、私達二人だけのために非常に真面目に授業をしていただき恐縮いたしました。この様な一流の先生と設備が揃えている環境の中で育てた学生はどこの病院にいても優秀な看護師になれると思います。

大森病院と大橋病院の医療設備が先進的で、病室が整えられています。患者さんに安全、安楽の環境を提供しています。大森病院で見学させていただいた新生児ICU、産科病棟と外来において、真面目に仕事をしている看護師、医師、看護師長の姿が見えました。二つの

病院にきている患者さんが安心して診療を受けられます。

佐山先生が美人で、親切で、授業の準備はとても真面目でした。3時間の国際看護学の授業のために、私達と一緒に何回もパワーポイントをみたり、内容を修正したりしました。とても助かりました。このように真面目な先生が揃っているので、学生がきっといいように育ちます。野崎先生は私達の日常生活において大変お世話になりました。細谷先生は深夜、空港まで私達を迎えに来てくださったり、朝早く送ってくださったりして、非常にお疲れになっているはずなのに、その優しい笑顔が素敵でした。

私達は第一回目の研修生として、収穫が多くありました。また、日本と中国の看護におけるの差を実感しました。これから、日本の進んだ管理技術と皆様の敬業精神を我々の病院職員と学生に伝えようと思います。

東邦大学の皆様、有難うございました。機会があればぜひ洛陽に、河南科技大学にいらして下さい。その際、盛大にご招待させていただきます。

贾竹敏

2009-10-22



国際交流委員会

委員長 岡田 敦子
副委員長 野崎真奈美
委員 量 倫子
佐山 理絵
細谷 幸子
徳永 恭子

発行日 平成22年2月4日
発行 東邦大学医学部看護学科 国際交流委員会
〒143-0015 東京都大田区大森西4-16-20
TEL 03 (3762) 9881